

演題：PROSTHODONTIC LONGEVITY

日時：2012年2月28日

演者：川内大輔(Dental Lover Roots)

Keywords

1. 咬合面形態
2. 咬合接触点
3. フレームの形態

抄録

インプラント、オールセラミックス、CAD/CAMと近年の補綴はより多様化している。

しかし、口腔内で長期にわたり維持安定する補綴物を作製するには、審美、機能、生体親和性、構造力学などの基本的事項を厳守することが重要になってくる。

特に過酷な口腔内環境において補綴物が長期的に機能することでその価値を患者が真に評価することになる。

裏をかえせばいくら審美的であっても、機能と長期安定性が成立しなければ患者の満足を満たすことにならない。

最近話題になるのは、例えば第一大臼歯を補綴するとして、フレームの材質や作製方法であって、個々の患者に対する咬合への配慮が不足しているように演者は感じている。

そこで今回、補綴の長期安定性を目指すために今一度基本に戻り、ABCコンタクト、クロージャーストッパーとイクォライザー、適切な咬合面形態などの重要性について検証を行い、築盛陶材の破折を防ぐ力に配慮したフレーム構造設計を提案したい。